

## 令和3年度第2回大和市社会教育委員会議定例会（第32期） 会議録

会議名（審議会等の名称）	令和3年度第2回大和市社会教育委員会議定例会（第32期）		
開催日時	令和3年7月2日（金曜日）午後3時00分～午後5時15分		
開催場所	文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター601講習室		
出席状況	委員	10人：伊藤（仁）委員、大川委員、大澤委員、小森委員、齋藤（正）委員、齋藤（道）委員、中山委員、箱崎委員、長谷部委員、丸田委員	
	関係各課	6人：文化スポーツ部長、文化振興課市史・文化財係長、図書・学び交流課長、スポーツ課長、こども部長、こども・青少年課長	
	事務局	3人：文化スポーツ部図書・学び交流課長、学び交流係長、同係員1人 学び交流係（259-6104）	
	傍聴人数	0人	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部非公開
非公開・一部非公開の場合 はその理由			
審議又は検討経過 及び結果	<p>1 会議次第</p> <p>（1）あいさつ</p> <p>（2）議長・副議長選出</p> <p>（3）協議事項</p> <p>1）点検・評価シート（2）大和市生涯学習推進計画について（教育委員会所管分）</p> <p>2）令和3年度社会教育委員会議から選出する委員について</p> <p>3）令和3年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p>4）家庭教育支援に関する事業について</p> <p>（4）その他</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p>&lt;開会&gt;</p> <p>&lt;委嘱式&gt;</p> <p>&lt;教育長あいさつ&gt;</p> <p>&lt;各委員あいさつ&gt;</p> <p>&lt;議長・副議長選出&gt;</p> <p>議長：丸田委員</p> <p>副議長：大澤委員</p> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <p>「1）点検・評価シート（2）健康都市やまとMANABI計画について（教育委員会所管分）」の施策目標1および2について、事務局より説明。</p> <p>※事前送付資料1の修正：4ページの「成果指標」の「市民一人当たりの学習センター来館回数」における2020年の実績値を、1.87回から2.28回に修正。10ページの「成果指標」の「青少年期に対応する講座等の延べ人数」における2020年の実績値を345人から342人に修正。</p> <p>（議 長）新しく社会教育委員になられた方もいるため事務局からの説明を</p>		

補足すると、大和市生涯学習推進計画の期間が2019年から2023年までとされており、昨年度は全5年間の計画における2年目に当たる。この計画は生涯学習について大和市がどのように進めていくか、3つの大きな項目を施策目標として定め、合わせて個別目標をつくったものである。そして毎年、達成度がどうだったか数値をベースに振り返り、行政として自己評価を行なっている、という説明が先ほど事務局からあった。

施策の個別目標についてそれぞれ評価し、総合的な評価の達成度を最後に記載するという構成である。

では、まずは施策目標1「誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します」に関して、ご質問やご意見、お気づきの点があれば挙手をお願いしたい。

(委員) 学習センターの実施するオンライン講座について説明があったが、オンラインのみで開催されるもの以外に、現地会場での開催とオンラインを組み合わせた、ハイブリット型の講座については検討していないのか教えていただきたい。

(市) 令和2年度に実施したオンライン講座はオンラインのみのものであった。ただ、人数の規模によっては、今ご提案のあったようなハイブリッド型の講座も考えられる。あくまでコロナ禍にあって開催可能な方法を模索しているということであり、一つの方法に限定して考えているわけではない。

(委員) 例えば高齢の方などは講座に興味があっても、パソコンに慣れておらず、オンライン開催のみであると、聴講できない場合も多いのではないかと。初回は会場に来てもらい、パソコン操作について説明し、二度目以降はオンラインで実施するといった開催方法も有効と考える。そうすればオンライン化も進めやすくなっていくはずである。

(議長) 新型コロナウイルスの影響については負の側面ばかりであるが、こういったオンライン講座の実施など、行政が新しい方法を考案すること自体は非常によいことであると思う。

ところで私からも1つ伺いたい。「青少年期対応講座等の開催」にある「子ども漫画講座～漫画家に学ぶ! 作画体験～」や「農業ってどんなお仕事?～いちごの美味しい食べ方～」などの講座の企画は、行政が行なったものであるのか、それとも指定管理者が行なったものであるのか、お聞かせ願いたい。

(市) 具体的な講座の内容については、指定管理者が企画を行い、実施したものである。

(議長) 子どもの好奇心に訴えかける講座であり、この企画には民間の力を感じる。講座の満足度の数値も高く、全体的に大和市は市民の関心を惹くような取り組みを実施できているのではないかと。

他にご質問やご意見のある方がいたら、挙手をお願いする。

(委員) 健康都市大学の講座について質問したい。市民や市民団体が講師を務める講座と、市が市民向けに実施している講座を比較した時に、傾向として参加者数などに差はあるのか。

(市) 講座を行う主体ではなく、テーマによって左右されると感じる。

健康や生活に関する講座などは人気が高く、整理券を配るほどの盛況を見せることもある。市の実施する講座であれば、災害対策に関する講座には多くの人が集まる。また、趣味や旅行の経験についての講座などで、聴講者の数が下がるといったことはない。

(委員) 個別目標 1-(4)「スポーツや健康に関する学習機会の提供」についてであるが、市内のプールの少なさや閉鎖について危惧を覚えている。今年度は致し方がないとしても、次年度以降はこの問題について考えていく必要があるのではないかと。

(市) 感染症対策が最優先であるため、行政としては慎重に対応をしている。水泳は接触の可能性が高い上、更衣室も密になりやすい。新型コロナウイルス感染症の流行が収束した暁には、市内プールの利用再開に向けて検討することになると考えている。

(議長) コロナ禍が終わったら、市民が水に親しむための機会をつくっていただければと思う。

施策目標 1 に対する行政の自己評価についてだが、私としては、個別目標 1-(2)の「生涯各期に合わせた学習機会の提供」の達成度がCであるのは、少し評価が辛いように感じている。活動指標や成果指標の実績値が低くなったのは、ほとんど新型コロナウイルス感染症の影響であると考えられる。

さて、この施策目標 1 に対して他に質問などは無いようなので、これについては承認ということによいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、施策目標 2「学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます」に関して、ご質問やご意見があれば挙手をお願いしたい。

(委員) 62 万冊以上という図書館の蔵書数について、この冊数が多いのか少ないのか、教えていただきたいと思う。

(市) 大和市には、文化創造拠点シリウスの図書館、中央林間図書館、渋谷図書館と、図書館が 3 つあり、他の自治体と比べても施設の数も充実しており、冊数も多いと考える。

(議長) 他にご質問やご意見はないか。

(委員) 全体的に、コロナ禍にあって大和市は頑張っているように思う。「読み聞かせボランティア養成講座」の参加者数についてだが、最終目標値である 300 人という数値は、やや高く設定されすぎているのではないだろうか。

(委員) 自分が 10 年ほど前に取り組んでいた頃は、もう少し多くの人数が参加していたように思う。しかし、今は学校の方でも保護者がボランティアとして迎えられていたりするので、そういった背景もあって人数が変わってきているのではないかと。

(委員) 今は新型コロナウイルスの流行もあり、あまりボランティアの方々を校内に招いていないが、教育長のご挨拶にもあったようにポスト・コロナの時代においては、ますますこういった活動への注目が高まればよいと考える。

(議長) 「読み聞かせボランティア養成講座」に通う、または通わない、という違いはあっても、この活動がいつそう盛り上がりを見せて

くれたらと考える。他にご意見はないか。

( 市 ) 300 人という最終目標値について、計画策定時に決定した数値をこれから変更するのは難しいが、この目標値は厳しすぎるのではないか、自己評価がCであるは本当に妥当であるのか、といった点に関しては、この場でご意見やご助言をいただきたく思う。

( 委 員 ) 目標値の策定ということに関してだが、図書館の蔵書数などは、予算もあるので年度を重ねる毎に増えていくことが自然であり、基本的に減少はないといった前提があるはずで、そう考えると、そもそも指標としてどうなのかという疑問がある。

( 市 ) 蔵書数の目標値についてだが、この5年間でこのように蔵書数を増やしていきたいという計画の表れであり、成果指標というよりは活動の目標、クリアすることを前提とした数値になっている。ある意味では、測定するというよりは、市の姿勢を見ていただくための数値でもある。

( 委 員 ) こういった目標値は一度策定するとなかなか修正が難しいので、市の姿勢の部分であることは承知の上で、目標に向かって段階的にクリアしていける数値が策定されるとよい。

( 議 長 ) さて、この施策目標2に対して他に質問や意見はないようなので、これについては承認ということによいか。

( 委 員 ) 異議なし。

( 議 長 ) 続いては、施策目標3「学習のための環境や仕組みの充実を図ります」に関して、事務局より説明を願いたい。

施策目標3について、事務局より説明。

( 議 長 ) 只今の説明についてご質問やご意見はあるか。

( 委 員 ) コロナ禍にありながらも、全般的に大和市は良好な成果を挙げているのではないかと考える。ただし、変異株の出現などもあり、新型コロナウイルスに関しては未だ楽観が許されない状況である。何より心配なのは子どもたちの心身であり、問題の完全な解決はできなくとも、こんな時期だからこそ、子どもたちの心のケアをするため、行政と私たち社会教育委員が一丸となって何か考えなくてはならないと考える。

( 議 長 ) ポスト・コロナの時代に子どもたちの心を和らげるため、社会教育の観点から果たせる役割は何か、この点について考えることは今後大きな課題となってくる。

さて、私からボランティア講師の登録について質問したい。講師の登録数はあっても、利用者の数についてはどうなのか、教えていただきたい。

( 市 ) 登録している講師については毎年広報誌を発行しているが、利用については2020年の成果指標にあるように1件となっている。学習センターの方でボランティア講師を招いて、お試しのよう形で講座を実施しているので、こうした活動が広がっていけば、利用も次第に増えていくのではないかと考える。

( 議 長 ) では、施策目標3について承認するとともに、3つある施策目標の説明が済んだので、個別目標2-(2)「人材や団体の育成と活用に関する支援」の評価についてはCからBへの変更を検討して

いただくように提案し、大和市生涯学習推進計画全体を承認して  
よいか。

(委員) 異議なし。

(議長) では、引き続きよろしく願います。

～休憩～ (関係各課退席)

～再開～

<協議事項>

「2) 令和3年度社会教育委員会議から選出する委員」について事務より  
説明。互選により、以下のとおり決定。

- ・生涯学習振興基金審査委員：大澤委員・中山委員
- ・青少年問題協議会委員：丸田委員
- ・子ども読書活動推進会議委員：大川委員
- ・神奈川県社会教育委員連絡協議会理事：丸田委員

「3) 令和3年度社会教育委員に関する研修会等」について事務局より説  
明。互選により、以下のとおり決定。

- ・県社会教育委員連絡協議会研修会：大川委員・齋藤(道)委員
- ・社会教育委員連絡会議：丸田委員・小森委員
- ・人権啓発研修講座：伊藤(仁)委員・長谷部委員
- ・県社会教育委員連絡協議会地区研究会(横須賀市)：齋藤(正)委員・  
箱崎委員
- ・県公民館連絡協議会第63回県公民館大会：大澤委員・中山委員
- ・県社会教育委員連絡協議会地区研究会(秦野市)：本日欠席の委員へ  
意向確認

「4) 家庭教育支援に関する事業」について図書・学び交流課の社会教育  
主事より説明。

(市) これまでの経緯から説明すると、平成27年1月に行われた社会  
教育委員と教育委員の情報交換会をきっかけに、社会教育が行う  
べき課題として「地域資源を活用した家庭教育支援等の必要性」  
が挙げられ、市内のコミュニティセンター(以下、コミセン)を  
活用して社会教育としての家庭教育事業を実施する提案がなさ  
れた。その後、家庭教育支援事業を市の社会教育主事等が企画し、  
社会教育委員を中心に学校やコミセンを会場としたアウトリー  
チ型の講座について検討され、受講者同士で、問題を共有した仲  
間づくりなどによる交流と、「子育てをみんなで応援する意識」  
を高め、家庭の教育力充実と、地域の教育力による子育て環境の  
改善を狙いとして、平成30年度より社会教育委員会議主催で家  
庭教育支援事業を実施しており、昨年度は感染症拡大防止のため  
事業を中止し、今年度で3回目の開催となる。今年度の講座につ

いてはコミセンを会場として検討したが、前回会議にて、会場は市南部、下福田中学校区の家庭・地域教育活性化会議と一緒に開催するとの提案があり、下福田中学校区のエリア内にある下福田コミセンを会場に検討を行ったが、コミセン至近に自然を有する公園などがなかったため、大和ゆとりの森に会場を変更した。

内容は、まず社会教育委員や社会教育主事についての講義と家庭教育に関する国や市の取組、親子のコミュニケーションを増やす工夫について、外出自粛の中で趣味を活かして親子で取り組む、親子で新たに共通の趣味を作る、など、親子が触れ合う機会としたことなどを、他市の事例などをもとに社会教育主事が約 40 分講義を行う。

続いて、コロナ禍における家庭学習における課題について、4 名ずつ 5 グループに分け、社会教育委員の皆さんにファシリテーターとして入っていただき、各家庭における家庭学習の悩みや工夫したこと、お子さんの様子などをワークショップ形式で意見交換し、最後に情報共有として受講者による発表を行う。

その後、講師にプロナチュラリストの佐々木洋さんを迎え、会場を屋外に移し、秋～冬にかけての自然体験をテーマとした親子でできる体験学習について実習、または、屋内で写真などをもとに講義を行っていただき、最後に今日の振り返りとして学んだこと、地域や家庭でできること、やってみたいことなどを振り返り 16 時に終了、という流れで企画した。

なお、講師の佐々木洋氏からは 11 月 14 日について、6 月上旬に連絡した際は、おそらく大丈夫であるとのことのお返事をいただいております。念のためのスケジュール確認待ちとなっている。参加対象は市内在住・在勤の小学生の子を持つ保護者とし、定員は会場となる多目的ルーム A B 合わせて 36 名まで利用可能であったことから、そこから市職員 4 名＋講師 1 名＋社会教育委員 11 名を引いた、20 名を募集人数とした。保育については会場が学習センターやコミセン内でなく、施設の保険が対象とならず、ボランティア保険の対象にもならないことから、今回は受け入れを行わない。参加申込みは夏休み明けの予定で、今後、大澤委員を通じて下福田中学校区の家庭・地域教育活性化会議と調整を行っていく予定である。

(議 長) 4 月に行われた第 31 期社会教育委員会会議の終わりに話し合ったのはここまでであり、以降は 32 期の委員で考えていきたい。只今の事務局からの説明について、皆様のご意見を伺う。

私としては、この流れで進めてよいと考えている。ただ、活性化会議と協力して実施するならば、小学生の保護者のみではなく、中学生の保護者も参加の対象とするべきではないかと考えるのだが、いかがか。

(委 員) 活性化会議を巻き込むのならば、中学生の保護者まで対象とするのはよい判断だと思うが、参加率を考えた時、中学生による参加はあまり多く見込めないのではないか。内容としては小学生向けの事業であり、下福田小学校にチラシを配布して周知するなど、

対象を小学生に絞った方が効果的であるかも知れない。

(議 長) 前回の引地台での事業内容を考えると、確かに小学生向けの事業である。ただ、あくまでも前回は前回であり、内容は変えていくことができる。

せっかく活性化会議にアプローチができたのだから、いずれ活性化会議の方でも企画立案を行うようになれば理想的である。

あくまでも一例だが、中学生たちが森林に迷路をつくり、それに自ら取り組むなど、市内各地域の地理的特性を生かした事業を、活性化会議に実施していただきたい。子どもが企画段階から能動的に参加できるような取り組みが望ましい。

(委 員) 子どもたちの自然に対する好奇心を刺激し、彼ら自身の動機づけを促すという意味では、今回の事業も、佐々木洋氏による説明を受動的に聞くにとどまらず、取り組みが終わった後でも、子どもたちが自主的に自然との触れ合いを継続していくような企画を考えなければならない。佐々木洋氏はプロであり、参加者を魅了する興味深い講義や実習を行ってくださることは間違いないが、そういった趣旨があることについて、事務局から事前に説明していただきたい。

(事務局) 承知した。

(委 員) 小学6年生と中学1年生では、歳は近くても関心の向かう対象が大きく異なるため、参加対象については、事業の内容をしっかりと考慮して決める必要がある。

(議 長) 確かに、より積極的な参加を期待するなら、子どもたちの関心のあり方にも注意しなければならない。他にご意見はあるか。

(委 員) 参加者の定員は20名となっているが、この数には活性化会議の面々も含まれているのか。

(事務局) 1日で実施するのならば20名が上限であり、これは会場にする多目的ルームの定員に基づいた数である。

また、参加対象についてだが、「受講者が地域の家庭教育支援者として、受講して得たノウハウを発信する役割を担っていく循環型の家庭教育支援の体制を地域に根付かせる」という事業目標を考慮すると、参加対象者を小学生、中学生と考えているものではないことから、中学生の保護者まで対象を広げてよいのではないかと考える。

(議 長) 家庭教育支援を地域に普及するという意味では、確かに小学生に限らず、中学生の保護者まで対象に含めていいかも知れない。

では、今後の見通しや事業の流れとしては、このとおりに進めていくことにする。

その他何かあるか。

(市) 次回の日程は、11月に行われる家庭教育支援事業終了後の月末を予定している。

① 22日(月) 午後3時半から

② 24日(水) 午後3時半から

③ 25日(木) 午後3時半から

④ 26日(金) 午前または午後3時半から

	<p>以上の候補日から各委員に選んでいただき、メールなどで回答を集めた上、参加者の多い日に定めたい。</p> <p>(議 長) では、各委員の予定を確認した上で事務局に調整いただくということによいか。</p> <p>(委 員) 異議なし。</p> <p>以上で議事を終わる。</p> <p>&lt;閉会&gt;</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度第2回社会教育委員会議定例会（第32期）次第</li> <li>・ 第32期大和市社会教育委員名簿</li> <li>・ 点検・評価シート（2）健康都市やまとMANABI計画（教育委員会所管分）</li> <li>・ 令和3年度社会教育委員会議から選出する委員（案）</li> <li>・ 令和3年度社会教育委員に関する研修会等（案）</li> <li>・ 令和3年度家庭教育支援講座（開催要項）</li> </ul>